

同志社大学一神教学際研究センター若手研究会シンポジウム

2010年5月15日(土) pm 1:00～

山梨英和大学 前学長

木田 献一

第1部 公開講演会

「マルティン・ブーバーの聖書解釈」

最近、マルティン・ブーバーの聖書解釈に関する書物が何冊か出ております。文献表にありますように、『モーセ』と『神の王国』と『油注がれた者』です。原著として最も古いのは、『神の王国』ですが、これは内容的には基礎的である古代イスラエル民族における独自の Theokratie の問題について基本的に重要な著作であると言えます。極く最近刊行されたのが『油注がれた者』ですが、これは刊行当時の政治状況のため、色々な経過の後に3度に分けて出版され、遂に未完に終わったものです。

『預言者の信仰』は、初め1940年オランダで出版され、ヘブル語版は1942年。英語版が1949年。ドイツ語版が1952年に出されたようです。これはブーバーの聖書解釈の主要な箇處を取り出してまとめたもので、ブーバーの聖書解釈の全体像を捉えるのに便利なものです。

『モーセ』は、ブーバーの聖書解釈にとって、最も重要なものとされているものですが、私は残念ながら十分に読み込んでいませんので、今回はあえて議論の対象から除外させていただきます。

先ず、『神の王国』からはじめたいと思いますが、この書はまず、士師記8:22に見られる「わたしは、あなたたちを治めない。息子もあなたたちを治めない。主があなたたちを治められる。」というギデオンの言葉を手掛かりとして、初期イスラエルにおける「テオクラティー」の考え方について述べています。次に、古代オリエントの主要3地域における、イデオロギー的色彩の強い、神王に関する主要な神話を取り上げています。(3地域は、エジプト、バビロン、南アラビアです。)

イスラエルの「テオクラティー」の特色は、西部セム人の部族に多く見られるもので、天上において全世界を支配し、地上の王権に神学的権威を与える性格のものではなく、メレクは民族の先頭に立ち、そして民と共に先導する神であり、この神との契約を結んだ民は完全な服従をもって、この神が与える根本法を遵守しながら、信徒の生活をするのが求められ、民のすべてに対して、このことが求められるのであり、民族の全体に対して誠実な行動が求められるところに、イスラエルのテオクラティーの特色があるとしています。この書の最後の章である8章は、「神政政治について」と題されており、神の直接的支配という信仰のあり方の困難について深く掘り下げた議論を展開しています。ブーバーの議論の展開は、イスラム教のベドウィンの性格の問題を論ずるだけでなく、ユダヤ教のメシアの性格は神人関係の相互主体的性格を重視し、否定媒介的な受難のメシア像になる過程を示唆してキリスト教との関係にも重要な見解を示すものとなっています。

M.Buber の聖書学関係の主要著作

Martin Buber Werke, Zweiter Band 1964

Kösel – Verlag München und Verlag Lambert Schneider
GmbH Heidelberg

1. Moses, Hebräisch; Jerusalem 1945, Oxford 1946, Zürich 1948, Heidelberg 1952

2. Der Glaube der Propheten, Amsterdam 1940, Hebräisch:

Tel-Aviv 1942, The Prophetic Faith, New York 1949, Zürich 1952

3. Königtum Gottes, Berlin 1932, 2 版 1936, 3 版 1956

4. Der Gesalbte

この著作集ではじめてこの形を取ったが、全体としては未完に終わっている。

最初は 1939 年にベルリンの schocken 出版社で発行されるはずであったが、1938 年にゲシュタポがこの出版社を閉鎖させてしまった。

第 1 章は“民の要求”と題して、1951 年 Ernst Lohmeyer 記念論文集の中に収められた。第 2 章は 1950 年にテル・アビブでヘブル語で出版され、第 3 章はヘブル語で 1938 年にテル・アビブで雑誌“シオン”に掲載され、1954 年には抜粋の形で Leo Baeck の 80 才誕生日祝賀記念論文集に掲載されている。

以上 4 書の和訳は次のようになっている。

2. 『預言者の信仰』は、1968 年みすず書房から 2 分冊でマルティン・ブーバー著作集の中に収められて出版されている。訳者は、故 高橋虔教授。

1. 『モーセ』は、荒井章三、早乙女礼子、山本邦子 共訳で 2002 年マルティン・ブーバー聖書著作集（日本キリスト教団出版局）の 1 冊として出版。

3. 『神の王国』は、木田献一、北博の共訳で同上著作集第 2 巻として出版。

4. 『油注がれた者』は、2010 年、木田と金井美彦の共訳で同上著作集第 3 巻として出版。

最後に、ブーバーの聖書学関係の邦訳だけでなく、『ひとつの土地にふたつの民』（合田正人 訳）（ユダヤ－アラブ問題によせて）2006 年みすず書房を特にあげておきたい。ブーバーの聖書学は常にこの問題を意識していると考えられる。

同志社大学 21 世紀 COE プログラムの研究テーマとして

一神教の学際的研究 (CISMOR) の一環としてブーバーの聖書学関係の著作を検討する場合に、特にイスラム教、ユダヤ教、キリスト教の三つの宗教がいずれも、ユダヤ教の正典である「旧約聖書」を信仰の基礎としながら、しばしば信仰上の対立を重ねてきたことは聖書解釈にあたって忘れることのできない問題点であるので、私自身必ずしも十分に CISMOR が積み重ねてきた研究を充分咀嚼しておかねばならないはずであるが、取りあえず手元にある 3 つの文献と CISMOR の研究のサブ・タイトルとして“文明の共存と安全保障の視点”について、宗教的、政治的、神学的に重要と考えられる若干の文献を追加しておきたい。

1. CISMOR VOICE 1, Summer 2004

2. CISMOR ユダヤ学会議 第 1 回: Papers & Discussions
日本におけるユダヤ学の現状、2005, December 10, Vol.1

3. 市川、白杵、大塚、手島 共編
『ユダヤ人と国民国家「政教分離」を再考する』、岩波書店、2008.9.25

4. Bernhard Lang, Wie wird man Prophet in Israel? 1980

5. Bernhard Lang, Monotheism and the Prophetic Minority

6. B・ラング編、荒井章三・辻学 訳
『唯一なる神—聖書における唯一神教の誕生』、新教出版社、1994 年

7. 市川裕 著『ユダヤ教の歴史』、山川出版社、2009 年

8. 平岡光太郎『現代ユダヤ思想における宗教と政治の関係
：ヴァイレルとラヴィツキーによる「ユダヤ神権政治論争」』
「宗教研究 362 号(日本宗教学会)」、2009 年 12 月 30 日発行

9. 折原浩 著『マックス・ヴェーバーとアジア—比較歴史社会学序説』
平凡社、2010 年 3 月 10 日